鶴見区区政会議 令和4年度第2回地域保健福祉部会

1 日時

令和4年12月8日(木) 18時30分～20時08分

2 場所

鶴見区役所 3階 302会議室

3 出席者

(委員)

桑名部会長、綿世副部会長、勘崎委員、宮原委員、寺井委員

(区役所)

川島副区长、貴田政策推進担当課長、中村市民協働課長、丹葉保健福祉課長、

浅田子育て支援・保健担当課長、大川生活支援担当課長、

木村総務課政策推進担当課長代理兼市民協働課長代理

大川市民協働課長代理、日下保健福祉課福祉担当課長代理、

上山保健福祉課保健担当課長代理、菅野保健福祉課副主幹、仲田総務課担当係長

土井市民協働課防災担当係長

更家市民協働課担当係長、辻岡市民協働課担当係長兼保健福祉課担当係長、

當麻保健福祉課担当係長、木田保健福祉課担当係長

4 議題

1. 鶴見区地域保健福祉ビジョン(仮称)(骨子案)について
2. 鶴見区将来ビジョン(素案)について
3. 令和5年度鶴見区運営方針(素案)について
4. その他

5 議事

開会 18時30分

○更家市民協働課担当係長　　こんばんは。お時間になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議、第2回地域保健福祉部会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

本日、私は司会を務めさせていただきます、市民協働課の更家と申します。よろしくお祈いします。

まず、開会に当たりまして、川島副区長からご挨拶申し上げます。

○川島副区長　　こちらのほうからご挨拶申し上げます。

鶴見区副区長で保健福祉センター所長の川島でございます。

桑名部会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、師走の何かとお忙しい中、また、お寒い中、区政会議地域保健福祉部会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、今年度末で計画期間満了を迎えます「鶴見区将来ビジョン」「鶴見区地域保健福祉ビジョン」の新計画の素案などについて、ご審議いただく予定といたしておりますが、そのうち「地域保健福祉ビジョン」につきまして、事前に資料をお送りすることができず、申し訳ございませんでした。

本日の議案は、非常にボリュームのある内容となっておりますので、限られた時間の中、恐縮ではございますが、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、内容をよりよいものとして、来年度から5カ年の鶴見区の基本計画である両ビジョンを取りまとめていければと考えております。

本日は、私も皆様からのご意見を直接、拝聴させていただくべく、最後まで入らせていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○更家市民協働課担当係長　　ありがとうございます。

今回、防災担当の職員が参加していますので、紹介させていただきます。

○土井市民協働課防災担当係長　　今回参加させていただきます、市民協働課防災担当の土井と申します。今回も含め、今後ともご指導のほうよろしくお願いいたします。

○更家市民協働課担当係長　　ありがとうございます。

それでは、早速ですが、これより議事進行を桑名部会長にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

○桑名部会長　皆さん、こんばんは。部会長の桑名です。

本日は、今年度2回目の部会ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、議題に入る前に、事務局から事務連絡があるということなので、事務局、よろしく申し上げます。

○仲田総務課担当係長　総務課の仲田と申します。

議題に入る前に、1点、ご報告をさせていただきたいと思っております。

机上配付しております、横向きの資料、「運営方針制度の見直しについて」という資料をご覧くださいませでしょうか。

右上にページ番号を振っておりますので、まず2ページ目をご覧くださいませでしょうか。

これまでは区政会議委員の皆様宛て、お送りをさせていただいておりました、運営方針の様式の一部になります。いわゆる、運営方針の本体とも言うべき、様式2というものになります。この運営方針を所管する市政改革室から運営方針制度の見直しに係る通知がありましたので、それに関連した内容を簡単ではございますが、ご報告をさせていただければと思っております。

3ページをご覧くださいませでしょうか。

まず、見直し内容といたしまして、運営方針については様式1から様式5までございますが、そのうち様式1を再構築した上で統一様式という様式に変更いたします。その他、現行の様式2～5などについては、各所属の判断による作成を可能とする、つまり、作成するかどうかは各所属の判断に委ねるというものです。

一方、これまでの鶴見区における運営方針や区政会議資料の取扱いについてですが、運営方針については、区政会議委員の皆様へ別途情報提供をさせていただいておりました。そもそも、運営方針は詳細な項目により構成されていることから、区政会議資

料にはなじまないと判断し、運営方針の中から主要な項目を抽出した上で区政会議資料を別途作成し、当該資料を基に委員の皆様から区役所の取組みなどに関してご意見をいただいております。

令和5年度以降の鶴見区運営方針についてですが、現行の運営方針の中から主要な項目を抽出した上で、鶴見区独自の運営方針を策定いたします。その主要な項目につきましては、これまで区政会議資料にて活用していた項目を基本といたします。また、職員の軽減負担の観点から、鶴見区独自の運営方針は区政会議資料と同一資料といたします。具体的な資料につきましては、議題3にて各担当からご説明させていただきます、令和5年度鶴見区運営方針（素案）が新しい様式となります。

最後、4ページ目をご覧くださいでしょうか。

様式を見直すに当たりまして、構成につきましても令和5年度から変更をしております。議題2にてご説明させていただきます、区将来ビジョンについては、いわゆる運営方針の上位概念に当たりますが、その対比においては齟齬が生じておりました。そのため、令和5年度以降については、その差異を解消することを意図して区運営方針の経営課題に係る順番を変更し、整合性を保つようにいたしました。ご覧のとおり、区将来ビジョンの項目順に合わせて運営方針の順番を変えております。

運営方針の内容につきましても、経営課題1～3に当たる部分ではありますが、順番を入れ替えたものであり、特定の取組みなどは削除などしておりません。また、経営課題4～5につきましては、新たに追加した項目になりますので、後ほど議題の2、3にて個別にご説明をさせていただきます。

冒頭での事務連絡につきましては、以上でございます。

○桑名部会長 ありがとうございます。

今の事務局からの事務連絡に関しまして、何か委員の皆様方、質問はございませんか。

ないようですので、それでは、次第に基づき議事を進めていきたいと思っております。

議題 1、「鶴見区地域保健福祉ビジョン（仮称）（骨子案）について」、事務局から説明をお願いいたします。

○木田保健福祉課担当係長　それでは、鶴見区地域保健福祉ビジョン（仮称）（骨子案）について、ご説明させていただきます。

お手元に本日お配りさせていただきました資料、資料 1 と資料 2 がございます。まず、お手元の資料 1、鶴見区地域保健福祉ビジョン（仮称）（骨子案）に基づいてご説明いたします。

はじめに、本ビジョンの位置づけについて、簡単にご説明いたします。

大阪市では、福祉の取組みの中心である区において、区地域福祉計画を策定し、ニア・イズ・ベターの考え方のもと、区民ニーズと地域特性に基づく取組みを進めております。

地域福祉計画は、障がい、高齢、児童といった福祉分野、保健福祉分野に加え、人権、防災など生活に関わる様々な分野に地域という視点から横ぐしを刺し、様々な施策が連携し、属性にかかわらず、すべての人の地域生活を支えることをめざすものです。

各区において策定するとされている地域福祉計画は、各区の実情に応じ、特色あるニア・イズ・ベターの取組みを進めていく上で非常に重要な計画となっています。

「鶴見区地域保健福祉ビジョン（仮称）」は、鶴見区における地域福祉計画であり、今年度、令和 5 年度～令和 9 年度の 5 カ年を計画期間とする計画を策定する予定としており、本日、骨子案及び素案についてご説明し、ご意見を賜りたいと存じます。

それでは、骨子案のご説明に入らせていただきます。

お手元の資料 1、「鶴見区地域保健福祉ビジョン（仮称）（骨子案）」をご覧ください。

まず、本計画の名称ですが、現行の名称が「鶴見区地域保健福祉ヴィジョン」。「ヴ」の「ヴィジョン」であるところ、次期計画では「鶴見区地域保健福祉ビジョ

ン」、「ビジョン」とすることを想定しております。

次に、章立てですが、左側の四角囲みに現行計画の章立てを、右側の四角囲みに次期計画の章立て案を記載し、変更箇所を太字にて記載しております。変更箇所は全部で8カ所あり、途中で資料2もご覧いただきながらご説明いたします。

上から順に、まず1点目①、第1章、鶴見区地域保健福祉ビジョンの策定にかかる3つ目の項目の名称を、計画期間に係る記述のため、記述内容に合わせて、「鶴見区地域保健福祉ビジョンの計画期間等」に変更する予定としております。

資料2の6ページをご覧くださいませでしょうか。

当該箇所では鶴見区地域保健福祉ビジョンの計画期間を本旨とし、補足として、改定のタイミングに関して必要に応じ見直しを検討する旨記載しており、本記載内容を反映した表記として「計画期間等」という名称に変更することとしております。

次に、②移動・変更についてご説明をさせていただきます。

現行のビジョンでは第3章に位置付けられていた「鶴見区の地域特性と地域保健福祉の現状課題」を次期ビジョンでは第2章に移行することとしております。根拠といたしまして、まず具体的な統計データなどに基づく鶴見区の地域特性と地域保健福祉の5年間の振り返りなど現状分析を経た上で、本ビジョンの基本理念、基本目標を設定する流れとする方が根拠が明確となり自然であるという考えに基づくものです。

具体的には、資料2の7ページから9ページまでの統計データに基づく動向等の鶴見区の地域特性と10ページから14ページまでの地域保健福祉の5年間の振り返りを踏まえて、今回策定するビジョンの理念と考え方を設定することとしております。

次に資料1にお戻りいただきまして、③変更につきましてご説明いたします。

基本理念の設定について、現行のビジョンでは将来像としての理念「地域に住む全ての人々が共に支え合い健康に安心して暮らせ、子育てできるまちづくりの推進」から次期ビジョンでは「だれもが自分らしく安心して共に暮らし続けられるまちづくり」に変更することといたしております。根拠といたしまして、資料2の15ページをご

覧願います。

上位計画である「大阪市地域福祉基本計画」では、住民や行政をはじめ、地域に関わる全ての人々が共に地域福祉の推進に取り組んでいくために共有できる理念として「だれもが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり」が設定されています。一方、「鶴見区将来ビジョン」では、高齢者や現役世代、そしてこれからの社会を担う子どもたちが地域や身近な人々と安心して暮らすことのできるまちの実現をめざし「つながり、ふれあい、みまもり、支え合う、誰一人取り残さない安心して暮らせるまち」が将来像として掲げられています。

両者の理念を兼ね備えたものとするため、地域福祉基本計画の理念「だれもが自分らしく安心して暮らし続けられるまちづくり」に、「誰一人取り残さない」の趣旨である「共に」を加えて、「誰もが自分らしく安心して共に暮らし続けられるまちづくり」を基本理念とすることとしております。

次に、④新規についてご説明いたします。

上位計画である「大阪市地域福祉基本計画」における基本理念の考え方を明記することとしております。

具体的には、資料2、15ページの下側に記載させていただいておりますとおり、「人権尊重の視点」「住民主体の地域づくりの視点」「ソーシャルインクルージョンの視点」「福祉コミュニティ形成の視点」「多様な主体の協働（マルチパートナシップ）の視点」の5点です。

次に⑥変更についてご説明いたします。

現行のビジョンでは、1～5まで5つの目標を掲げておりました。これらを、次期ビジョンでは、2つの目標に組み換えることとしております。

資料2の17ページをご覧くださいませでしょうか。

現行ビジョンに係る基本目標としまして、「1 みんなで支え合う地域づくり」「2 総合的な相談支援体制の充実」「3 権利擁護の推進」「4 地域福祉の担い手の育成」

「5いきいきと暮らすための健康づくり」の5つを、次期ビジョンにおいて、「1気にかける・つながる・支え合う地域づくり」「2だれでも、いつでも、なんでも言える相談支援体制づくり」の二つに集約することといたしております。

根拠といたしまして、前計画の基本目標を設定する経緯として、上位計画である「大阪市地域福祉基本計画」に掲げる基本目標と、区が特に力を入れて取り組む施策も目標の一つとして掲げていましたが、本施策については、上位計画である「大阪市地域福祉基本計画」における基本目標を実現するためのものでありますので、次期ビジョンでは目標として掲げず、上位計画の基本目標との整合性を図ることにします。

次に、⑦新規についてご説明いたします。

新たに「計画の体系」という章を設けようというものでございます。資料2の19ページをご覧くださいませでしょうか。

基本理念、基本目標及び各基本目標にかかる施策の方向性の関係性を図示して明記することといたしております。

最後に、⑧新規についてご説明いたします。取組内容について、現行のビジョンにおいて目標ごとの取組内容を列挙していたところですが、次期ビジョンでは、各取組みの課題や目的を明確にするため、目標ごとの施策の方向性及び課題別に分類して記載することとしております。

さらに、大阪市の方針で、その運用状況を評価することとされたため、成果目標をビジョンに掲げることとしております。

個々の中身につきましては、素案のほうで説明させていただきます。

骨子案の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○桑名部会長 ありがとうございました。

今の事務局よりのビジョンの説明について、何か意見はありませんか。

○綿世副部会長 1個だけ聞かせてほしいところが。

まず、分からない言葉が出てきましたので、④新規の（3）ソーシャルインクルー

ジョンというのは、どういう意味ですか。

○木田保健福祉課担当係長 ソーシャルインクルージョンというのは、社会的排除と社会的擁護、援護を要する人々への支援という意味で、日本語に訳しますと「すべての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援助し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う新しい社会福祉を進めていく」という意味です。

○綿世副部長 分かりました。前までの分と今回新規の分で私が感じたことをお伝えさせていただきます。

前までは、分かりにくいようにつくってありました。前はね。今度の新規の分、分かりやすいのですけれども、これを見ていると、「支え合う地域づくり」とは地域振興会のことかなと思うんです。地域の今の地活のやっていること。

これね、今の基本的な部分を見ていますが、地域のつながりが大事なのかなと感じます。当然、最後の成果目標、これが40%となっていることも、当然、大阪市全体を見た場合、そういうものかなと思うんですけれども、鶴見区はもうちょっと地域振興の加入率が高いので、もっと高くあってもいいのではないかなと思います。

つまり、内容をみる限り、地域振興、地活による取組みが大事なのではないかと感じました。

○桑名部長 事務局、何かありますか。

○辻岡市民協働課担当係長兼保健福祉課担当係長 市民協働課、辻岡でございます。

今、綿世委員からご指摘がありましたように、支え合う地域づくりということで、この間、前計画から5年の取組みの中でも、いろいろと記載をさせていただいています。地域において、地域福祉の向上に向けた取組みを実施いただいております。その取組みの中で気になる方であったり、集える場所というのをおつくりいただいて、横のつながりや顔の見えるつながりというものをつくってきていただいていると認識をしているところです。

今後、そういった取組みをより推進していくためにも、この間、委員からもいろいろとご意見を頂戴しているように、担い手をどうしていくのかという課題が一方であろうかと考えております。その辺を含めて、ビジョンの中でいろいろとご議論を賜って、今後の5年に向けて進めていけたらと考えておりますので、またよろしくお願いたします。

○桑名部会長 綿世委員、いいですか。

○綿世副部会長 はい。

○桑名部会長 ありがとうございます。

ほかにご意見はございませんか。次の方。

それでは、ないようですので、引き続いて、素案について、事務局から説明をお願いします。

○木田保健福祉課担当係長 それでは、鶴見区地域保健福祉ビジョンの素案につきまして、簡単に説明させていただきます。

お手元の資料2をご覧ください。章立てにつきましては、先ほど骨子案で説明したとおりです。素案の内容として特にご確認いただきたい箇所は、10ページ以降の「第2章 地域保健福祉の5年間の振り返り」と20ページ以降の「第4章『鶴見区地域保健福祉ビジョン』の施策の方向性と具体的な取組み」のところ です。

ただ、本日配布いたしました資料に基づき、ご説明し、ご意見をいただくことは大変困難であると思われますので大変申し訳ないのですが、後日資料をご覧いただき、何かご意見があれば、別添の「令和4年度第2回地域保健福祉部会での意見等について」にご記入いただき、12月23日（金）までに返信用封筒により郵送願いたいと存じます。

何とぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○桑名部会長 ありがとうございます。

今、説明にありましたように、部会の意見等につきましては、また後日帰ってご意見がありましたら書いていただいて、12月23日までに到着するようにお願いをしておきます。

それでは、この素案について、特に質問がないと思いますので、次の議題に進みたいと思います。

議題2、鶴見区将来ビジョン（素案）について、事務局から順次説明をお願いします。

○仲田総務課担当係長 資料3、「鶴見区将来ビジョン（素案）」に基づいて、私からご説明をさせていただければと思います。

まず、この資料に関する説明の前に、簡単ではございますが、この間の経過などについてご説明をいたします。

8月に開催いたしました第1回目の区政会議各部会において、「鶴見区将来ビジョンの方向性について」という資料を基に、委員の皆様からご意見などを伺ったところでございます。そのご意見などについては、10月に開催いたしました区政会議全体会にて皆様と共有するとともに、当該意見に対する区役所の見解などについてもお示しをしたところでございます。

個々にご意見をいただいたところですが、鶴見区将来ビジョン策定における方向性という大きな部分に関しては、大幅な修正が必要であるといったご意見はなく、おおむねご了承いただいたものと理解しております。

そのため、本日もご説明させていただきます資料の「鶴見区将来ビジョン（素案）」については、前回の部会にて使用した資料から抜粋したものや、同一資料が含まれております。それらの内容につきましては、重複すること、また時間短縮のため一部説明を省略させていただきますので、ご了承いただければと思います。

また、本資料につきましては、素案と表記しておりますが、今後、皆様のご意見を踏まえ、案、案取りとバージョンアップしていく予定でございます。その過程に

おいては、この資料を基本とした上で、微修正を加えていくイメージで作成しております。そのため、1 ページ目には、令和 4 年 1 2 月ではなく令和 5 年 4 月と表記しております。

長くなりました。資料右上にページ番号を附番しておりますので、まず 2 ページ目をご覧くださいませでしょうか。

まず、「はじめに」というところで、これまでの 5 年間である 2 0 1 8 年から 2 0 2 2 年では、めざすべき将来像としての「つながり、ふれあい、みまもり、支え合う、だれもが安心して暮らせるまち」の実現に向け、4 つの柱を軸に取組みを進めてまいりました。各種施策・取組みにつきましては、おおむね想定どおりに進捗していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの取組みが中止や変更を余儀なくされました。

そのため、今後は、新型コロナウイルス感染症にかかる感染状況を含め、外部環境の変化に柔軟に対応していく必要があります。これからの 5 年間では、これまでのめざすべき将来像に S D G s の理念である「誰一人取り残さない」というキーワードを新たに付け加えた上で、その実現に向けた持続的かつ安定的な施策を推し進めますとしております。

3 ページ目をご覧くださいませでしょうか。

資料の目次に当たる部分になります。大きな項目である「Ⅰ」の部分につきましては、冒頭、お伝えしましたように、前回の区政会議部会にてご説明させていただいた内容と重複する箇所が多いことから、少し早足でご説明をさせていただきます。

「Ⅱ」の部分につきましては、鶴見区における特徴的なデータを集めております。

「Ⅲ」の部分につきましては、鶴見区将来ビジョンの核となる部分になります。

4 ページ目をご覧くださいませでしょうか。

区将来ビジョンの策定趣旨や区運営方針との関係性を図示したものになっております。議題 3 では、令和 5 年度鶴見区運営方針（素案）に関するご説明をさせていただきます。

きますが、それはこの区将来ビジョンにて示された施策展開の方向性に沿って、年度ごとの施策・事業の取組みを明らかにする単年度ごとのアクションプランに当たります。

5 ページ目をご覧ください。

平成25年度に初めて将来ビジョンを策定して以降、今回お示しするのが3度目に当たります。

6 ページをご覧くださいいただけますでしょうか。

この5年間の振り返りということで、この5年間の将来ビジョンを構成する4つの柱、並びに施策展開の方向性、施策をひとまとめにしたものになっております。

7 ページから9 ページまでは、参考資料といたしまして、この5年間の始期である、平成30年度と直近の令和3年度の運営方針におけるアウトカム指標と実績値、またその間の目標達成・未達成の状況を記載しております。こちらも前回資料と同一資料となっておりますので、次に進めさせていただきます。

10 ページをご覧くださいいただけますでしょうか。

この5年間の振り返りの総括的な部分として「まとめ」としております。こちらも前回資料と同一内容となっており、また2 ページ目の「はじめに」のある記載内容の転記元となっているものでございます。

11 ページをご覧ください。

今後、5年間に向けての基本的な考え方になります。項目は前回資料と同じになりますが、上段の記載内容を今回分かりやすく修正したこと、また令和5年度以降の将来ビジョン策定に関しての基礎となる部分ですので、改めて確認をさせていただきます。

この5年間の振り返りを通して、これまでの施策展開の方向性の4つの柱については、引き続き、課題解決に向けた施策を展開するとともに、PDCAサイクルの徹底を図るものであることから、今後5年間に向けても継続していくことを基本として、

必要な修正・更新を行っていくものとします。

つまり、令和5年度を始期とする新たな将来ビジョンにつきましては、これまでの将来ビジョンから大幅に変更するものではなく、施策の継続性などを重視し、四角で囲っております4つの柱に関連する各種施策展開の方向性は、継続・維持していくとともに、必要なものに関しては適宜修正や更新を行っていくものとしております。

12ページをご覧ください。

ここからが、大項目の「Ⅱ」といたしまして、鶴見区の概要をデータにて紹介していく資料となっております。

まず、上段、昭和50年以降の5年ごとの国勢調査結果に基づく鶴見区の人口推移となります。昭和55年以降、増加傾向にあります。近年ではその傾向が緩やかなものとなっております。

下段をご覧ください。鶴見区の地域別の人口の平成22年、平成27年、令和2年の推移でございます。平成22年～令和2年までの10年間で10%以上の増加があった地域は、茨田西、緑地域の2地域です。一方、人口で10%以上の減少があった地域は茨田東地域の1地域となっております。

13ページをご覧ください。

ここでは、令和2年国勢調査結果のうち、大阪市内24区のうち鶴見区がナンバー1である特徴的な統計データを集めたものになります。

まず、左上をご覧ください。年齢別人口構成比のうち15歳未満、いわゆる年少人口の割合について、鶴見区は14.7%と最も高くなっております。

続きまして、右上、1世帯当たり人員について、鶴見区は2.27人と最も多くなっております。

左下、15歳以上の人口のうち配偶者がいる割合について、鶴見区は56.4%と最も高くなっております。

最後、右下、3世代での世帯数の割合について、わずかですが鶴見区は1.94%

と最も高くなっております。鶴見区は子育て世帯のイメージがありますが、祖父母、現役世代、子どもと3世代で暮らす割合につきましても、鶴見区は24区中最も高くなっております。

14ページをご覧ください。

ここでは、昼夜間人口比率をグラフにしたものになります。昼夜間人口比率は昼間人口を夜間人口で割ることにより求められる比率です。棒グラフが昼間人口と夜間人口、線グラフがその比率になります。こちらにつきましても、鶴見区は最も低い、つまり、ほかの区に比べて区内で暮らし、区外へ通勤・通学される方が比較的多い傾向にあります。

一方、グラフの左側、中央区や北区にはオフィス街が集積しておりますので、鶴見区とは異なり非常に高い数値、つまり、住んでおられる方に比べて通勤等で訪れる方が非常に多いことが分かります。

15ページをご覧ください。

こちらについては他区と比較をしておりますが、鶴見区内にお住まいの方のうち、仕事をしておられる方が勤務されている会社を産業別に見たものです。最も多い産業が「卸売業、小売業」、続いて、「製造業」、「医療、福祉」などとなっております。

16ページをご覧ください。

こちらにつきましては、鶴見区内にお住まいの方のうち、仕事をしておられる方を職業別に見たものになります。最も多い職業が「事務従事者」、続いて「専門的・技術的職業従事者」、「販売従事者」などとなっております。

17ページをご覧ください。

大項目の「Ⅱ」の最後のページになります。先ほどまでは、鶴見区にお住まいの方に着目したデータでしたが、このデータは鶴見区内に立地している民間事業所を産業別に見たものです。左は、事業所の数、右は従業者の数の平成28年時点でのデータです。

事業所数を見ますと、多い順に「卸売業、小売業」、「製造業」、「不動産業、物品賃貸業」などとなっております。右のグラフ、従業者数を見ると、多い順に、「卸売業、小売業」、「製造業」、「医療、福祉」などとなっております。

以上が、統計データから見た鶴見区の概要になります。

18ページをご覧ください。

ここからが大項目の「Ⅲ」といたしまして、始期を令和5年度とする鶴見区将来ビジョンの内容になります。

まず、1として、全体像をお示ししております。

今回の鶴見区将来ビジョンでは、「めざすべき将来像」として、冒頭でもお伝えしましたように『誰一人取り残さない』というフレーズを新たに付け加え、「つながり、ふれあい、みまもり、支え合う、『誰一人取り残さない』、安心して暮らせるまち」としております。

その「めざすべき将来像」を実現するために、5つの「柱」、柱に基づく「施策展開の方向性」、その方向性を具体化した「施策」の3つを掲載しております。その柱ごとに、次のページ以降にて個別に確認をさせていただきます。

19ページをご覧ください。

柱1つ目、「つながる・支え合う」では、「施策展開の方向性」を2つ設定しております。下線部は、これまでの将来ビジョンからの変更点となっておりますので、今回、その「方向性」を変更しております。

1つ目、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」、2つ目、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」です。

具体的な施策につきましては、現状では未定としております。先ほど説明がありましたような内容、かつ今後住民や区社会福祉協議会などのご意見を丁寧にお聞きした上で、鶴見区地域保健福祉ビジョンに反映されたものを適宜こちらに引用する予定です。つまり、鶴見区地域保健福祉ビジョンの内容が固まり次第、この鶴見区将来ビ

ジョンに反映していくこととしております。

20ページをご覧ください。

柱2つ目「備える」では、「施策展開の方向性」を2つ設定しております。

1つ目「災害に強いまちづくり」、2つ目「安心・安全なまちづくり」です。

柱1つ目とは異なり下線がないことから、これまでの将来ビジョンからの変更はございません。

具体的な施策につきましては、「今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。」また、「鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。」としております。

21ページをご覧ください。

柱3つ目「育てる・まなぶ」では、「施策展開の方向性」を3つ設定しております。

1つ目「安心して子育てできる環境づくり」、2つ目「まなびを通じたつながりづくり」、3つ目「学校教育の支援」です。

こちらも、これまでの将来ビジョンからの変更はございません。

具体的な施策につきましては、「地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者や子どもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。さらに、こどもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。」また、「幅広い層に『まなびの場』を知ってもらうとともに、『まなび』を通じたつながりづくりを進めます。」最後に、「区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。」としております。

22ページをご覧ください。

上段、柱4つ目「聴く・伝える」では、まず柱の名称を「聞く」から「聴く」と表

記を変更した上で、「施策展開の方向性」を1つ設定しております。これまでの施策展開の方向性では、「情報・魅力発信・総合窓口の充実」でしたが、これからは「区政情報の発信及び区民ニーズの把握」に変更しております。

具体的な施策につきましては、「あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信を行うとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。」としております。

下段、柱5つ目「共に生きる」は、新設となります。

施策展開の方向性では、「環境を守り自然と共生したまちづくり」とした上で、具体的な施策につきましては、「2030年までの国際目標である持続可能な開発目標の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めていきます。」としております。

23ページをご覧ください。

23ページ～27ページまでは、先ほどご説明させていただきました柱ごとに施策展開の方向性と施策を掲載するとともに、その施策に基づく主な取組みを紹介する構成になります。

23ページは、柱1つ目になりますが、先ほどお伝えしましたように、現状、未定の項目が多いことから、続いて、24ページをご覧ください。

柱2つ目の「備える」では、主な取組みを5つ掲載しております。

その取組みにつきましては、後ほど議題3にてご説明させていただきます、令和5年度鶴見区運営方針（素案）の具体的取組のタイトルから引用しております。

鶴見区将来ビジョンでは、「施策展開の方向性」などを取りまとめることを主眼にしておりますが、そういった内容をイメージしやすくするため、主な取組みを掲載する次第です。

あくまでイメージをもっていただくため、取組内容の記載はタイトルのみにとどめ、ご覧のとおり写真などを掲載する予定です。次回の部会では、写真を掲載した上で鶴

見区将来ビジョン（案）として改めてお示ししたいと考えております。

以下、27ページまでは同様の構成にする予定ですので、ご確認いただければと思います。

最後になります。28ページをご覧ください。

この資料につきましては、参考といたしまして、後ほど議題3にてご説明いたします、令和5年度鶴見区運営方針（素案）のうち、施策ごとの中期での成果指標と目標値を取りまとめたものになります。

目標値については、鶴見区将来ビジョンにおける終期である令和9年度時点での数値を掲載しております。

多くの指標では、区民アンケート結果を用いております。前回の部会では、区民アンケート結果以外の内容も加味した上で、複合的な評価をすべきとのご意見をいただいております。ご指摘のとおり、区役所といたしましても、施策や事務事業評価を的確に実施するためには、様々な指標や項目などを複合的に勘案し、適切な評価を実施していく必要があると考えております。

あくまで区民アンケート結果は成果を測定する上での判断材料の一つにすぎません。より適切、より妥当な指標、ひいてはより客観的に施策評価できるよう、区政会議委員の皆様のご意見をいただき、ときには議論しつつ、ブラッシュアップに努めてまいりたいと考えております。

一旦は、令和9年度時点での目標値を設定しておりますが、これまでの過程において見直しが必要になった場合には、適宜修正等をした上でPDCAサイクルを徹底してまいりたいと考えております。

鶴見区将来ビジョン（素案）についてのご説明は以上でございます。

○桑名部会長 ありがとうございました。今の事務局よりの「鶴見区将来ビジョン（素案）」について説明がありましたけれども、何か委員の方、質問はございませんか。ありませんでしょうか。

ないようですので、次の議題に進めたいと思います。

議題 3、令和 5 年度鶴見区運営方針（素案）について、施策ごとに事務局から説明をお願いします。

最初に、施策 1 - 1 について説明をお願いします。

○木田保健福祉課担当係長 それでは、令和 5 年度鶴見区運営方針、施策 1 - 1 について説明させていただきます。

資料 4 の 3 ページをご覧ください。

「柱 1 つながる・支え合う」の二つの施策の 1 つ、施策 1 - 1 に係る方向性、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」です。

3 つの成果指標の 1 つ目は、区民アンケートで「日常生活の中で『お元気ですか？』や『何かお困りですか？』など住民同士の『声かけ』『見守り』『支え合い』が行われていると感じる」と回答した区民の割合を、令和 9 年度までに 40%以上、令和 5 年度では 30%以上になることをめざしております。前年度の値が 26.4%だったということも踏まえましての設定値です。

当該成果目標に係る具体的な取組内容につきましては、次ページ、4 ページをご覧ください。

当年度の取組内容は、具体的取組 1 - 1 - 1 に掲げさせていただいておりますとおり「地域福祉力の向上」といたしまして、1 つ目が、地域の相談窓口業務や関係機関との連携の充実といたしまして、地域福祉コーディネーター（つなげ隊）の配置、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置です。

さらに、住民同士の助け合い活動の支援といたしまして、地域有償ボランティア活動（あいまち）の実施及びつなげ隊及びあいまち会員への研修の開催を区社協と連携して実施する予定としております。

当年の成果指標は、つなげ隊が対応した「地域住民等からの相談」件数、令和 5 年度 4,500 件以上を掲げております。あいまち会員の会員登録継続意向アンケート

で「今後も続けていきたい」と回答した方の割合を60%以上としております。

具体的取組1-1-1は以上です。

○辻岡市民協働課担当係長兼保健福祉課担当係長 引き続き、私から次ページ、5ページになりますが、具体的取組1-1-2につきましてご説明を申し上げます。

1-1-2、「地域活動協議会による自律的な地域運営の促進」ということで、取組内容としましては、昨年とほぼ同様という形になっておりますが、地域の実情に応じたきめ細やかな支援を実施しながら、町会加入リーフレット等、また改めて更新できるところは更新しながら、転入者の方へ配布をしてまいりたいと考えております。

また、不動産会社等と連携しながら、契約者への情報発信等にも努めてまいりたいと考えております。

2点目でございますが、地活協の意義や求められる機能の理解促進ということで、各地域の運営委員会等で準行政機能に係る情報発信や総意形成機能に関する内容について、ご説明等をさせていただきたいと考えております。

3点目、区の状況に応じた支援の実施ということで、まちづくりセンターと連携を密に取りながら、各地域の課題解決に向けて支援を実施してまいりたいと考えておりますし、まだまだコロナが続いておる状況でございますので、新しい生活様式に適した活動の支援というものもご提案させていただきながら進めてまいりたいと考えております。

成果指標でございますが、1点目としましては、地活協の構成団体が自分の地域に即した支援を受けているということが感じる割合というものを、令和5年度90%とさせていただきます。

2点目、地活協の構成団体が地活協に求める準行政機能を認識している割合ということで、80%を目標設定にさせていただきます。令和3年を見ていただきますと、この割合についてはかなり目標値から乖離している現状となっており、58.3%ということで、なかなか行政側、区役所側についてもこの準行政的機能について

地域に具体的に分かりやすいご説明ができていないのかなと考えておりますので、その点を踏まえて資料作成等も進めて、より認知度を深めていただけるような取組みを進めてまいりたいと考えております。

3点目でございますが、地活協の構成団体が地活協に求める総意形成機能を認識している割合、70%を目標に掲げております。令和3年度数値は62.5ということで、目標に届いていない状況ではございますので、準行政機能と合わせて総意形成機能についても認知度向上に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○当麻保健福祉課担当係長 健康づくり担当の当麻です。よろしくお願いいたします。

私からは、次のページ、6ページの具体的取組1-1-3「健康増進意識の向上」というページになります。

基本的に継続事業ということで、中身は大きく変わりはありません。

今年度の取組内容予定ということで、区民の自主的な健康づくりを進めるための取組みということで、令和5年度については「健康展」の開催1回を予定しております。

続きまして、食育フェスタの開催を1回、健康に関する講演会の開催、こちらも1回、ウォーキング教室の開催を1回、ウォーキングカレンダーの発行、食育に関する調理実習の開催、百歳体操の継続実施に向けた支援、地域関係機関と協働で健康づくりを実践できる場の提供ということとしております。

「栄養・食生活」「運動」「たばこ」などの健康に役立つ情報発信ということで、広報紙、ホームページやフェイスブック、啓発チラシの配布を随時行ってまいりたいと考えておりました、がん検診・乳幼児健診など区が実施する保健福祉事業の際に啓発実施も継続して行ってまいりたいと考えております。

成果指標ですが、イベント参加者にアンケートを行いまして、「健康に関する取

組みへのきっかけとなった」と回答していただいた区民の割合を70%以上とさせていただきたいと思っております。令和3年度実績で97.1%と高い数値になっていますが、コロナの先がまだまだ見通せないと感じておりまして、保守的ではありますが、70%以上を確保していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○桑名部会長 ありがとうございました。今、各事務局の方より、1-1-1から1-1-3まで説明がありましたけれども、それぞれに対して何か質問はございませんか。

○寺井委員 寺井です。

この百歳体操の継続実施というところで、各連合でやられていると聞いていますが、一つ、残念だなと思うことは、最初1年間は半年に1回ずつ計測に来てくれていたんです。最初、百歳体操をする人全員に歩き方のスピードなどを計測していただき、半年後にそれがどれだけ成長したかということ測りに来てくれていたんですよ。それで皆さんは、楽しみにして百歳体操をしに集会所に集まっているということがあったんですけれども。

最近、全然そういう姿を見ないので、ある方に聞いてみたら、あれはなくなったんだと。計測はやめたようだということを知ったので、その理由を誰に聞いたらいいか分からなかったもので、今回、継続できるものか、やっぱり中止すべきものかという返答をいただきたいなと思います。

○菅野保健福祉課副主幹 保健福祉課の保健師で菅野と申します。私からお答えさせていただきたいと思います。

いきいき百歳体操につきましては、新規で立ち上げの場合、まず3回リハ職の専門家を派遣させていただきまして、体操の指導でありますとか、簡単な体力測定のようなものも実施させていただいているところです。

それから、継続して実施をしていただいているグループに対しましても、年に1回は体操の指導プラス体力測定のような簡単な計測をさせていただくことができるようにはなっているところです。

ただ、この間、コロナ禍で途中、中止をされているグループがあったり、状況がグループによって違うかと思います。また保健師が地域のそういう状況を把握させていただきながら、再開されているところ、継続実施されているところをしっかりと把握しながら、年に最低1回はそういったものをご利用いただけるようにさせていただきたいと思いますので、また今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○桑名部会長 よろしゅうございますか。

○寺井委員 よろしく願いします。

○桑名部会長 ありがとうございます。

それでは、引き続き、施策1-2、7ページ以降について、事務局から説明をお願いいたします。

○木田保健福祉課担当係長 それでは、柱1「つながる・支え合う」の二つ目の施策1-2「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」についてご説明させていただきます。

本施策の成果指標につきましては、「区民アンケートで『地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる』と回答した区民の割合」を、令和5年度につきましては30%以上、令和9年度につきましては40%以上を目標とします。

具体的な取組みにつきましては、次ページをご覧ください。

3つございまして、1つ目は、複合的な課題を抱えた要援護者などに対応するために、地域と専門職、専門職間のネットワークづくりを進め、相談支援体制の充実を図ります。

具体的な実施内容といたしましては、総合的な支援調整の場（つながる場）の開催

を通年にて実施いたします。

2つ目の取組内容は、区民に対する認知症対策の普及啓発です。「大阪市認知症アプリ」などを活用した認知症の普及啓発を実施いたします。

最後に3つ目の取組内容は、区役所職員に対する認知症の普及啓発です。認知症サポーター養成講座を開催いたします。

当年度の成果指標は二つございまして、一つ目は、単年度で大阪市認知症アプリの活用方法の説明を受け、ダウンロードを完了した方の人数と、大阪市認知症アプリのコンテンツである「わたしのケアノート」印刷物を受け取った方の人数の合計人数が、令和5年度500人以上を目標とします。

もう一つの目標は、「つながる場」の参加者で「関係者が一堂に会することで、要援護者（要援護世帯）の抱える問題を解きほぐすことができ、支援の見通しがたった」と回答した割合が、令和5年度は60%以上となることをめざします。

以上です。

○桑名部会長 今の説明で何かご意見はありませんでしょうか。1-2の内容について説明がありましたけれども、何かご意見はありませんか。

○宮原委員 すみません。認知症アプリってどういうことなのですか。

○木田保健福祉課担当係長 認知症の相談窓口の周知や認知症に関する正しい知識の普及・啓発により、市民自らの認知症予防の取組みや、認知症の早期発見・早期対応を支援する大阪市の福祉局が作成したアプリです。その中の一つのコンテンツとして、認知症になる前にご本人にしか分からない情報を記録しておくための「わたしのケアノート」がございまして、それがデータで配信されておりました。例えば通帳の暗証番号とか、そういったものを全部記録しておいていただいたら、いざというときにご家族等周囲の方は大変助かるというものでございまして。

○宮原委員

先日、非常に複雑な案件に関して、相談を受ける機会がありましたが、どこまで私

たちが入り込むべきか、悩んだことがありました。言い方は悪いんですけど、家族の問題について、どうして私たちが振り回されなければならないのかという人が多いんですよ、やっぱり。関わりたくないっていう方が多い一方、どこまで私たちが入っていいのかな、関与していいのかなというのをちょっと今気になっております。そういうことで、何か個別の事案が出てきた場合、その対応などを教えていただきたいなと思います。

○桑名部会長 宮原委員、ありがとうございます。今、お聞きのように各地域によってはいろいろな悩み事がたくさんあります。一人で問題解決できない問題がいろいろありますので、また、そちらの役所の方々もその問題に対して対応できるようなこととか、あるいは処理できるようなことがあれば皆さん方に情報提供いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

それでは、当部会を担当する分野は以上になりますけれども。令和5年度運営方針が新たに掲載することになった項目、このページでいいますと25ページ以降になります。そこに関して、事務局から説明がありますので、よろしくお願いします。

○仲田総務課担当係長 改めて、総務課の仲田でございます。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

先ほどの資料、運営方針のページで25ページになります。9ページから24ページにかけては、ほかの部会でご議論いただく内容となっておりますので、25ページをご覧くださいませでしょうか。

25ページ目、将来ビジョンの柱4つ目「聴く・伝える」に係る「施策の方向性」につきましては、「区政情報の発信及び区民ニーズの把握」とした上で、施策内容は「あらゆる世代に必要な情報を分かりやすく提供できるよう情報発信を行うとともに、区政会議などにより多様な区民ニーズの把握に努めます。」としております。

中期での成果指標は、「区民アンケートで『鶴見区が実施する広報で、必要とする区政情報が必要なときに入手できている』と回答した区民の割合」としております。

ここでの記載がございませんが、令和3年度の実績値が67.6%であることから、令和5年度の目標値を70%以上、令和9年度の目標値を75%以上と設定しております。

続きまして、26ページをご覧ください。

まず、具体的取組4-1-1といたしまして、区民が必要としている区政情報の発信ということで、広報となります。

「④当年度の取組内容（予定）」の内容になりますが、「各種広報媒体を活用した情報発信」として、区広報紙の発行及び全戸配布、区ホームページやSNS、また区広報板による区政情報の発信を実施いたします。これらの取組みにつきましては、この間、運営方針に掲載しておりませんでした。以前から取り組んでいる継続したものになります。

また、来年度、新規の取組みといたしまして下線を引いておりますが、大阪・関西万博開催に向けた機運醸成を目的とした区広報紙の特集号を作成いたします。具体的には、特定の月の広報紙にて4ページ分の特集記事を掲載するというものでございます。

⑤成果指標といたしまして、区民アンケートで「区広報紙や区ホームページ、SNS、区広報板を見て、区政について関心が高まった」と回答した区民の割合としております。令和3年度実績値が53.4%であることから、令和5年度の目標値を60%以上としております。

続きまして、27ページをご覧ください。

具体的取組の2つ目、4-1-2といたしまして、多様な区民ニーズの把握、いわゆる広聴としております。

④当年度の取組内容といたしまして、「ニーズや意向を把握する各種取組み」といたしまして、区政会議の開催、区民アンケートの実施、区長と区民の意見交換を実施いたします。これらの取組みにつきましても、この間、運営方針に掲載しておりませ

んでしたが、以前から取り組んでいる継続したものになります。

⑤成果指標といたしまして、区政会議において各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政会議委員の割合としております。令和4年度実績値、速報値になりますが71.4%であることから、令和5年度の目標値を75%以上と設定しております。

柱4に関する施策、取組みについては以上でございます。

続いて、28ページをご覧ください。

先ほど議題2にてご説明させていただきましたとおり、この28ページ以降につきましては、新しく項目出ししたのものになります。

将来ビジョンの柱5つ目「共に生きる」に係る「施策の方向性」につきましては、「環境を守り自然と共生したまちづくり」とした上で、施策内容は「2030年までの国際目標である持続可能な開発目標の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めていきます。」としています。

中期での成果指標は、「区民アンケートで『日頃から意識してSDGsに取り組んでいる』と回答した区民の割合」としております。これまで、この指標に関するアンケートは実施しておらず、現状の数値を把握していないことから、令和4年度の実績値が判明次第、令和5年度、令和9年度の目標値を設定する予定でございます。

最後になります。29ページをご覧ください。

取組5-1-1、SDGsの推進といたしまして、④当年度の取組内容を3つ掲げております。

1つ目、SDGsの推進といたしまして、区内の小学生向けにSDGsの周知、日々の行動がSDGsに関連している意識づけ、広報紙での周知の実施を予定しております。下線部分、「区内の小学生向けの、SDGsに関する周知」では、来年度、新たな取組みとして小学生向けのポスターコンクールを予定しております。

2つ目、「花と緑豊かな環境の推進」として、区民の方が花や緑に触れる機会を創

出することを予定しております。具体的には、従前から実施しております、「種から育てる地域の花づくり事業」や区民の方に種をお配りするといった取組みに当たります。

最後に、「環境についてのまなび」ということで、環境講座など環境局と連携し取り組むとしております。今年度につきましては、イオンモールにて、究極のエコカーと言われるF-CV、燃料電池自動車の展示、車からの給電実演を行い、区民の皆様に環境について考えてもらうきっかけづくりを行いました。来年度も環境局と連携した取組みを実施する予定です。

⑤成果指標といたしまして、2つ設定しております。

1つ目が、「区民アンケートで『鶴見区が花や緑あふれるまちと感じている』と回答した区民の割合」としております。令和3年度実績値が85%であり、令和4年度同様、令和5年度も目標値を85%以上と設定しております。

2つ目が、「区民アンケートで『SDGsを知っていた』と回答した区民の割合」としております。令和3年度実績値が45.5%であり、令和5年度の目標値については60%以上と設定しております。

柱5つ目に関する施策、取組内容については以上でございます。

○桑名部会長 ありがとうございます。今の「聴く・伝える」「共に生きる」に対しての説明がありましたけれども、何かご意見はございませんか。

今までこの5年間のビジョン、かなり大きないろいろなことが出ているのですけれども、これは5年では終わらないわけですね。その次、その次と、これで完璧だということはないので。また4年先、5年先のときにこれをまた変更、針路を変える場合もある。それでずっと続くものですから、その中で非常に大きな課題もあるんですけども、それを我々や地域の者と役所の方々と協力しながらやっていくわけです。

その中で、途中でPDCAサイクルを取り入れて、また戻すとか、考え出していくとかそういうことをやっていかないと、このまま突っ走ってもなかなか進行してい

っても難しいと思います。だから、今のP D C Aサイクルの中でぐるぐるサイクルを回しながら、これは駄目だったので元に戻そうとか、このテーマは具合が悪かったなどかということが出てくるので、そういうことも役所の方も見直していただければと思います。

我々もピンとこないことはたくさんありますから、この方針はちょっと間違っていたなとか、これはちょっと控え目にしようかなということが出てきますので、そういうこともしっかりと我々に指導していただいて、そちらも頑張っていただきたいと思いますので、よろしく願いしておきます。

ありがとうございました。本日、様々な意見をいただきました。それらの意見のうち、事務局で今度検討が必要な事項には、次回の部会の議題でもある「鶴見区地域保健福祉ビジョン」「鶴見区将来ビジョン」「令和5年度鶴見区運営方針」にそれぞれ反映をしていただき、次回の部会にて報告をいただけますようお願いいたします。

あわせて、本日出された意見については、取りまとめた上で来年の2月頃に開催予定の次回全体会議で私から部会報告させていただきますので、よろしくお願いをしておきます。

それでは、本日予定されておりました議題は全て完了いたしました。皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。最後に事務局から事務連絡をお願いいたします。

○仲田総務課担当係長 最後に事務局から、事務連絡が3点ほどございます。

まず1点目でございますが、8月の区政会議の部会終了後にアンケートの回答をお願いしておりましたが、未回答の方が何名かいらっしゃいます。回答がまだの委員におかれましては、お手数ですが区役所まで返信用封筒にて郵送いただきますよう、お願いいたします。アンケート用紙をなくされた方につきましては、会議終了後に私までお声がけいただければと思います。

続いて、2点目でございます。お手元でございます返信用封筒にクリップどめした

A 4 判の資料「令和 4 年度勉強会・意見交換会でのテーマについて」という資料、ございますでしょうか。

2 段落目になります。各部会が所掌する分野において、本市における特色ある取り組みや区政会議委員の皆様の関心の高い事業などについて、区役所職員からご説明等をさせていただいたり、もしくは委員同士にて意見交換する場、以下勉強会・意見交換会とありますが、これを別途設けることにより当該分野での理解向上の一助になればと考えております。

つきましては、令和 4 年度第 3 回の区政会議の部会、来年の 1 月中旬から下旬頃を予定しております。その終了後に、時間に余裕がある場合に限り、勉強会・意見交換会を開催したいと考えております。その勉強会・意見交換会にて取り上げてほしいテーマなどがございましたら、次のとおり記載の上、今年度の 1 2 月 2 3 日（金）までに返信用封筒により郵送いただきますよう、お願いいたします。

なお、勉強会・意見交換会にて取り上げるテーマにつきましては、別途区役所にて判断をいたします。ご希望されたテーマが必ずしも採用されるわけではございませんので、ご了承いただきますようお願いいたします。

あわせて、今回開催を予定しております勉強会・意見交換会につきましては、区役所職員からご説明等をさせていただき、いわゆる勉強会方式にするのか、または委員同士にて情報共有することを主眼とする意見交換会方式にするのかにつきましても、今回いただいたテーマなどを参考に別途決めさせていただき予定でございます。

最後、3 点目でございます。繰り返しになりますが、今年度の区政会議の開催予定について、改めて周知をさせていただきます。

まず、来年 1 月中旬から下旬にかけて、第 3 回の部会、続いて、2 月頃から 3 月上旬にかけて、第 2 回の全体会の開催を予定しております。今年度につきましては、来年に残り 2 回となっておりますので、ご承知おきいただければと思います。

長くなりましたが、事務局からの事務連絡 3 点は以上でございます。

○桑名部会長 ありがとうございました。ご苦労さまでした。

閉会 20時08分